

報告

千葉県生活困窮者自立支援実務者ネットワーク 第1回子どもの学習・生活支援部会

2024/2/19(月)

子どもの学習・生活支援に関する相談員の研修に参加しました。開催場所である千葉県弁護士会館の近くには、初めて見る千葉県庁や千葉地方裁判所などもあり、学生の時に行った、社会科見学の時のわくわくした感覚を久しぶりに感じました。

研修では最初に、「子どもの学習・生活支援事業と課題」をテーマに講義を受け、その後、千葉県内の様々な市町村から参加された支援員・相談員でグループワークを行いました。「支援者側でインターネットやチラシなどで告知や広報を行っても、なかなか利用に繋がらない。」「一人一人

の学生に能力差があり、教える側が一人にかかりっきりになってしまう事がある。」等をはじめとした、様々な現場の意見が出ました。それに対し、「関係機関との連携を強化し、告知の幅や情報提供の場を増やす。」「勉強をしに来てくれた児童を通じて、世帯の課題を知り、他の相談にも繋げる。」などの対応を検討出来ました。生活支援に関する相談の幅は広く、複数の課題が絡んでいることも多いため、話を伺い、丁寧に整理し、ニーズに応える環境を準備しておく事の重要性を再認識することが出来ました。

就労準備支援室だより



家計改善支援員が講師となり、年金の「給付と納付」「種類」「加入のメリット」の項目で学び、皆さんは真剣そのものでした。

「今まで学ぶ機会がなかった。加入して納めることが大事だ」と感想を頂きました。



わかたけ社会センターの養鶏場見学に行きました。

鶏の餌やり、卵取り、卵拭き、パック詰め等を見学。「卵一つでも大変な苦労がよくわかりました」と参加者の感想を頂きました。

毎月発行!
スマイル
もぜひご覧ください!

家計改善 の 雑学

新！NISA！

ご存知ですか？
NISA が変わりました！
そもそも NISA と

は、投資信託・株などの金融商品売買利益に対して、非課税になる制度。「貯蓄から投資へ」の制度で始まりました。現行では 20% 課税により、10 万円の利益が手取り 8 万円になります。その非課税限度額（手元に 10 万円入る）が 2024 年 1 月から拡大されました。NISA には 3 種類あり、期限も限定されていたりと、利用しづらい点がありました。新制度からは、期限無期限化に始まり、複雑だった制度が簡素化、利用しやすくなります。この秋ごろから定期預金の金利が大幅に上がったと言っても、10 万円を 1 年預けて 200 円の利息。40 円税金を引かれて、160 円が現状です。これでは、貯蓄の醍醐味は味わえないですね。新 NISA の情報は、証券会社始めインターネットで内容の確認が可能です。



柏市地域生活支援センターあいネットでは、柏市から委託を受け、年代性別を問わず、福祉にかかる様々な悩みごと、ご相談をお受けしています。

広報誌「じんけんぽん」では、日々の相談員の活動や報告を中心にお届けしています。ご相談いただくみなさん、関わりを持っていただくみなさんにあいネットを身近に感じていただければ幸いです。

柏市地域生活支援センター



あいネット

柏市地域生活支援センターあいネット広報誌

じんけんぽん

2023 年度第 4 号

2024. 3. 15/No. 188

もくじ

- 01：かしまる中会議
事例からみるあいネット
- 02：あいネット相談員インタビュー [番外編:実習生が来た！]
フードバンク下半期のお礼
- 03：報告 [第1回子どもの学習・生活支援部会]
就労準備支援室だより
家計改善支援の雑学 [新！NISA！]

社会福祉法人 生活クラブ 風の村 柏市地域生活支援センター あいネット

〒277-0005 千葉県柏市柏 5-8-12 ラコルタ柏 (教育福祉会館) 1 階

04-7165-8707

ainet@kazenomura.jp

月-金曜日 (祝日除く) 8:30-17:30

WEBSITE



かしまる 中会議

1/22(月)・25(木)・29(月)・30(火)

柏市の重層的支援体制整備事業(かしまる)のひとつ、かしまる中会議(南部エリア)に参加しました。

今回は今年度の事業の振り返りと今後の方向性について報告・説明があり、その後意見交換を行いました。

事業を行う中で、今ある制度や仕組みだけではカバーできない状況が見えてきており、『個別の相談支援』から一歩進んで、今後は『参加支援・地域づくりに向けた支援』にも力を入れていく、ということでした。

かしまるは複雑複合化する相談を一体的に受け止め、関係機関と協働し、相談者に寄り添い課題解決までを継続的に支援する体制構築を目指す事業で、柏市の4つのエリア(北部、中央、南部、東部)ごとに顔の見える関係をつくり、支援事例や地域の特徴・課題を共有し意見交換を行う場として、年に2回エリア別にこの「かしまる中会議」が開催されています。

意見交換では事例を元に2つの切り口(「事例に引き付けて」「自分の関心に引き付けて」)から「地域の参加の場」に関するアイデアをグループごとに出し合い、全体で共有しました。「課題解決のために」という発想を一旦横に置き、風船を飛ばすようにグループで自由に意見を出し合いそれを全体で共有することで、実にさまざまな色合いの風船が空間の中に放たれた、そんな印象でした。さまざまな立場の人がともに考えることで、既存の枠に捉われない豊かな発想につながることを感じた会議でした。



あいネット相談員 インタビュー 番外編



実習生が来た!

今回は番外編として、あいネットに来ている実習生にインタビューしました。

●社会福祉士を目指そうと思ったきっかけ、おもしろいことを教えてください。

サラリーマン生活の最後10年程度、事務系の特例子会社を担当していました。主に知的障害の方が就労しており、障害者就労に興味を持ちました。担当している間に、本人が安定して働くためには家庭環境が大切であり、家庭で起きている問題を解決していないと仕事を休んだり不安定になると気付きました。正にあいネットに対応しているような生活困窮、虐待、家族関係の課題等を見てきました。家庭の影響で安定した就労が難しくなっていると感じたケースは、節約のために食事を制限している職員、家族の都合に合わせて睡眠が安定せず作業中に居眠りをしてしまう職員、衣類に乱れがある職員、スマホを所持できない経済状況の職員、家庭内暴力のある職員、などでした。家庭の問題に関しては、障害者就業・生活支援センターと連携・協力しながら家庭へ介入して改善していくことが多くありました。特例子会社を担当することになるまで福祉に全く関わることはありませんでしたが、そのような経験の中で障害者就労だけでなく社会福祉全般を学んでみたいという思いを持ったことが社会福祉士を目指したきっかけです。

●あいネットの印象、現場で感じたことはありますか？

実習前には「総合相談」についてあまりイメージがありませんでした。実際に現場で面談や訪問に同席、会議でケース共有を聞いていると、相談内容の範囲が大変広がったです。その分、相談員が幅広い知識やスキルが必要となり、相談員同士、お互い補い合っていることも知りました。総合相談という意味であいネットのような専門集団が必要だと感じました。

全体を通して、本人からの「助けて」の声や困り感がない時の関わりは難しいと感じました。そのため家族や本人以外からの相談が多いという印象がありました。本人がいざ、やっとの思いで相談に来てくれたときは切羽詰まった相談が多くあると感じました。授業でも聞いてはいたけれど、相談時に本人が話してくれるニーズの背景に隠れているもの、言葉だけじゃない情報を読み取ることも大切であると実感しました。面談時ではすぐに分らなかったけれど後から振り返って感じるが多かったです。

今後は幅広く社会福祉全般を学んだ上でもともと興味があった障害者就労の分野で活かしていきたいと考えています。情報量が多すぎた8日間の実習、終わってから整理したいと思います。

事例からみる

あいネット



お子さまへは、SSW(スクールソーシャルワーカー)や児童家庭支援センターへお繋ぎしました。Aさんが涙しながら弱音を吐かれるときも、お話を受け止めつづご支援をしました。

その後、Aさんから卒業式後にお子さまと一緒に撮影した写真を送ってくださいまして、とても嬉しく思ったものです。

私は、Aさんを支援し、Aさんの気持ちの回復に伴い、お子さまも環境に順応するのかと考えておりましたが、急な環境変化は、お子さまにとってつらい問題であり、子どもへの気持ちの寄り添いがいかに大事で必要だったかと考えさせられるケースでもありました。

子どもの福祉を第一に支援を考えていかなければと考えるケースとなりました。



私にはこの時期になると思い出すケースがあります。

夫から経済的、精神的DVを受けていたAさんからの相談で、別居、離婚を考えているが、転居費用やその後の生活費、お子さまの卒業・進学にかかる費用、卒業式用の服など用意するお金がないという相談でした。

Aさん、お子さまの経済的・心理的負担の軽減を考える事とし、ひとつずつできることから支援をすることにしました。

フードバンク 下半期のお礼



必要としている福祉施設や困窮世帯等へ食品を無料で提供する「フードバンク」と呼ばれる活動があります。まだ食べられるにもかかわらず廃棄されてしまう食品(いわゆる食品ロス)を削減するため、「フードバンクちば」が千葉県内の各所に食品を回収する場所を設置していますが、柏市においては、「フードバンクちば」と連携しながら「柏市地域生活支援センター」が受付・保管・配布等の活動を実施しています。

食品(賞味期限が2カ月以上あり常温で保存できる未開封品)の回収は、「柏市地域生活支援センター」の窓口にて随時行ったほか、「イトーヨーカドー柏店」や「イトーヨーカドーアリオ柏店」と連携し、各店舗のサービスカウンターで食品を受け付けていただき、定期的に回収をしました。また廃棄物政策課と連携し、リボン館で食品の回収を受け付けていただいたり、ラコルタ柏フェスティバルや松葉町フードドライブに参加し、フードバンク受付窓口を設置して食品の回収を行ったりしました。今年度は2,000kgを超える寄付をいただき、様々な事情により困窮の状

況に陥ってしまっている方々や子ども食堂への配布をすることができました。ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

